

記念物
【天然記念物】

キシノウエトカゲ

Plestiodon kishinouyei

指定年月日／1975（昭和 50）年 6 月 26 日
所在地／地域を定めず指定



撮影：松島昭司

キシノウエトカゲは、宮古、八重山諸島にだけ生息し、日本のトカゲの仲間では最大のもので、頭から尾の先まで 40 cm 余にもなる。低地林や農道、草地、海岸林などの開けた日当たりの良い場所で生活し、陽射しの中を昆虫類やクモ類、ムカデ類など、餌を求めてチョロチョロ動き回る。体の大きなわりには行動が敏捷で、外敵が近づくと素早く岩穴などへ逃げ込む。

3～4 月が繁殖期といわれ、幼体は尾が青く、近い仲間のイシガキトカゲとそっくりだが、耳後方の側線模様がまだらになっている事でキシノウエトカゲと判断できる。

屋敷の周りを石垣で囲んでいた家が多かった頃は、集落内でも見かける事があり、とても身近な存在だったが、石垣がブロック塀へ代わり、土地改良などの影響で近年は数が減っているとされる。

記念物
【天然記念物】

イイジマムシクイ

Phylloscopus ijimae

指定年月日／1975（昭和 50）年 6 月 26 日
所在地／地域を定めず指定



提供：与那国町教育委員会

イイジマムシクイは、世界中で伊豆諸島とトカラ列島の数島でしか繁殖が確認されていない渡り鳥である。秋には越冬のためフィリピンなどの南方へ渡っていると考えられ、春には逆に南方から繁殖のため伊豆諸島、トカラ列島に渡ってくる。しかし、記録が少なく、渡りについてはまだまだ不明な点が多い。八重山諸島では、渡りの時期に稀に観察することが出来る。

落葉広葉樹林、照葉樹林、混交林などに生息し、食性は動物食傾向の強い雑食で、昆虫、クモなどの他、

果実や種子を食べることもある。樹上を移動しながら獲物を捕食するが、停空飛翔しながら獲物を捕食することもある。4～6 月が繁殖期で、広葉樹やササの枝上に球形の巣を作り、白色の卵を 3～4 個産む。ホトトギスに托卵される事があり、ホトトギスが近づくと警戒して防衛する。

繁殖地である三宅島の噴火による影響で減少傾向にあるが、原因はそれだけではなく、越冬地であるフィリピンなどの環境破壊も大きく影響しているともいわれている。国内のみならず、生息範囲全体での保護活動が必要となっている。